

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 250 号	氏名	鳴海 由希子
学位審査委員	主査 塚元 和弘 副査 芳本 忠 副査 吉浦 孝一郎		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、病因不明の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）の発症に関与している疾患感受性遺伝子を同定し、これの遺伝子多型をバイオマーカーに用いた遺伝子診断への応用を検証したものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 潰瘍性大腸炎あるいはクローン病患者群と健常者群を対象に、T 細胞抑制補助シグナルに関与する3つの遺伝子と自己抗体産生に関与する1つの遺伝子を候補遺伝子として、これらの遺伝子多型を解析し、疾患群と健常者群間で多型の出現頻度を有意差検定した。最後にバイオマーカーとして用いた場合の感度と特異度を算出しており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、4つの候補遺伝子のうち3つの遺伝子が潰瘍性大腸炎の疾患感受性遺伝子であった。相関を認めたすべての多型に対して多変量解析を行った結果、お互いに独立して潰瘍性大腸炎になりやすい多型を2つ同定できた。それらをバイオマーカーとして遺伝子診断した結果、両多型をもつヒトは持たないヒトと比べて約3.8倍罹患しやすいことがわかった。今後も他の遺伝子多型と組み合わせることで、この疾患の発症前診断に利用できる可能性が高く、今後の発展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は、ヒトのゲノム情報を用いた遺伝子診断研究に、それに続くテーラーメイド医療の実現に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			